

経営比較分析表 / 団体全体 (令和4年度決算)

兵庫県 神戸市

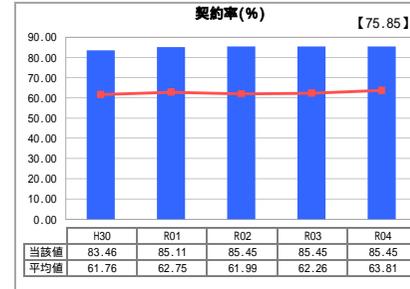
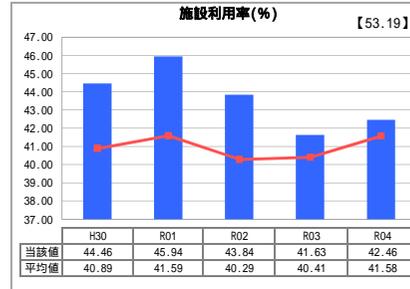
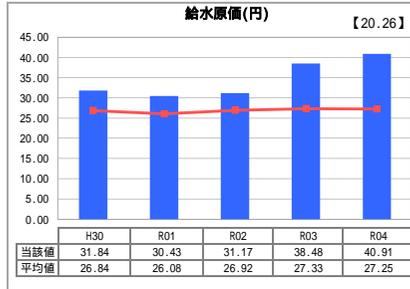
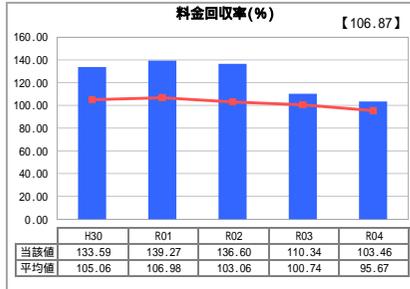
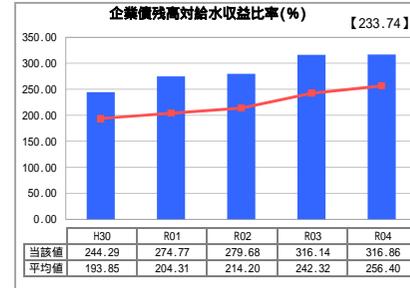
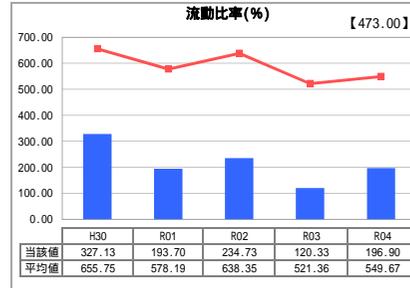
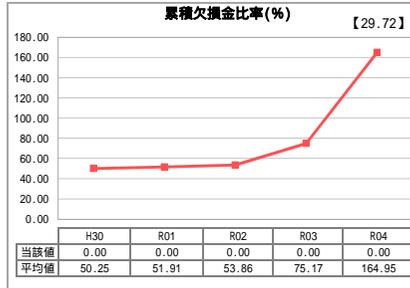
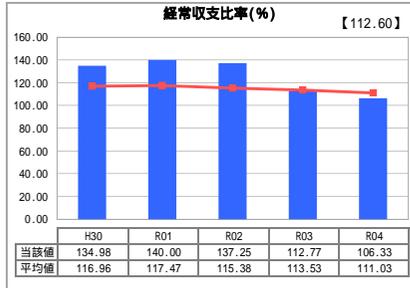
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	106,000	中規模	1	45,007
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	68.9	73	90,576	自治体職員	

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率
減価償却費等の費用の増加により低下しているものの、健全経営の水準とされる100%は上回っている。

累積欠損金比率
発生していない

流動比率
100%を超えているため、現状では短期的な支払能力に問題はない

企業債残高対給水収益比率
令和元年度以降更新投資の増加に対応するため企業債を発行しており値が上昇している。

料金回収率
料金回収率は100%を超えており、類似団体の平均値と比較しても高い値となっている。

給水原価
給水原価は減価償却費等の費用の増加により値が上昇している。

施設利用率
過去と比較して低下しているものの、類似団体との比較では高い水準である。

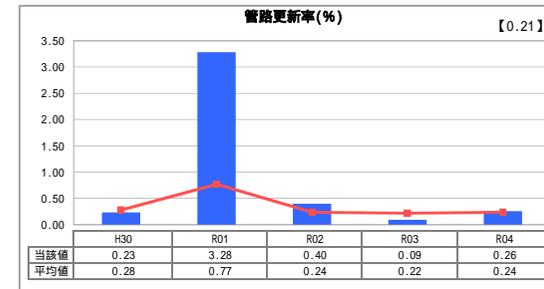
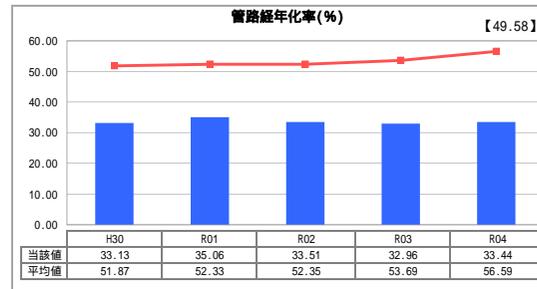
契約率
安定して高水準を維持できている。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年率
計画的な更新に努めてきたことから法定耐用年数を上回る資産が少ないため、類似団体と比較して低水準である。

管路更新率
類似団体と同程度の水準である。今後、昭和30~40年代に整備した管路など、大量の工業用水道施設が更新時期を迎えることから、現在の経営状況を維持しつつ、引き続き計画的な施設更新を行っていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

水需要の合理化や経年施設の更新を見据えつつ、引き続き、持続的・効率的な安定給水と経営基盤の強化に努めていく。